

平成29年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	101	学校名	富士市立高等学校	校長名	岩田 享
------	-----	-----	----------	-----	------

評価	基準	評価	基準
A	十分目標を達成することができた	C	あまり目標を達成することができなかった
B	おおむね目標を達成することができた	D	ほとんど目標を達成することができなかった

本年度の取組（重点目標は**ゴシック体**で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	生活及び学習リズムの確立	欠席・遅刻・早退昨年度より減へ（入院等の長欠者を除く）	1,2学期の欠席遅刻は昨年度より10%以上減少した。	教務 B	1・2年生では、やや不登校傾向の生徒がいるため、担任や教育相談室との連携を図っていきたい。3年生での欠席遅刻の減少は、進路実現に向けての学年の指導の成果であると思われる。
		・朝読書で学期1冊を読破する	落ち着いて読書に取り組み、1冊以上読破した。	教務 B	昨年よりも、朝読書の時間に遅れて登校する生徒が減った。
		・健康観察調査（毎朝）	黒板の記入とパソコン入力で健康状態を把握することができた。	保健 B	担任だけが負担とならないよう、副担任の協力も得たい。
		・平均2時間以上の家庭学習時間確保	各学年、テスト前の週は、平均3時間を超えるが、平常時は100分程度の学習時間である。	教務 B	基礎学力の定着と進路実現に向けて、授業だけでなく家庭学習の大切さを今後も継続して指導していく必要がある。
イ	魅力ある授業実践と授業力向上	・授業の内容が分かる生徒の割合（70%以上）	生徒アンケート 1年 65.0% 2年 62.5% 3年 67.5% 全体 65.0%	教務 B	70%を超えることができなかったが、1・2年生は昨年度とほぼ同値、3年生の割合は昨年度よりも上昇した。
		・出張時における授業時間の確保（90%以上）	初任者研修や他の研修による出張の回数が多かったが、概ね8割は変更により授業を確保することができた。	教務 B	安易に自習にすることはなかったが、学科横断の授業展開が多かったり、非常勤講師の勤務時間が関係したりと、科目によっては時間割の変更が難しい課程である。特別時間割や各教科内での代講による措置がさらに必要である。
		・実践報告書の全員提出	11月までに非常勤講師を除く全ての教員が授業実践報告書を提出し教科で協議を実施した。	企画 A	全ての教員がアクティブラーニングの手法を取り入れた授業を実施した。さらに主体的・対話的で深い学びに結びつけていくために、各教科による授業研究が必要である。

		・ 県内都市立 高校研修会へ の複数参加	沼津市立高校に 3 名、静 岡市立高校に 5 名、清水 桜が丘高校に 6 名の教 諭が、各校の研修会に参 加した。	企画 B	県内都市立高校の交流によって情報 交換ができた。ユニットリーダーが研 修に参加して得たものを、各教科の授 業改善に活かしたい。
		・ 授業到達率 が昨年度より 上がった教員 が 30%以上	新任者を除いた教員 5 7 名のうち 26 名 (4 5.6%) の授業到達率 が上昇した。	企画 A	概ね半数の教員の授業到達率が 向上した。生徒が効果を実感で きる授業にしていくことが課題 である。
ウ	高い志のもと 進路実現のため の進路啓発 及び実績	・ 大学等との 連携及び外部 講師の招聘	2 年進路別大学模擬 授業等計画的に実施 することができた。	キャ リア A	学科の行事・研修との調整をし、 内容を精選する必要があると思 われる。
		・ 早期の進路 目標決定 (1 年末の進路目 標未定者 10 0%以下)	1 月における進路目 標未決定者は、1 年 生が前回より減少し て 12%、2 年生が 0%であった。	キャ リア B	難関大学への志望において減少 の傾向が見られ、日常的な進路 指導の必要性を感じる。
		・ 保護者進路 説明会におけ る各学年の参 加率 50%以上	各学年の概ね 100 名 以上の保護者が参加 した。昨年度に比べ 参加者が増えた。	キャ リア B	多様な進路志望に対応できるプ ログラムではないので、この点 は学年部及びクラスの指導に任 せたい。
		・ 年 5 回の面 接実施	学年部の主導で進め たが、機会を捉えて 行われた。	キャ リア A	取り組みの改善は果たせた。
		・ 3 年進学補 講の参加率 (70%以上)	補講参加者は増加 し、参加者率は 70% を越えた。	キャ リア A	次年度は補講の効果の向上を目 指したい。
		・ 過回 (7 月) に比べ校外模 試(11 月)の平 均点偏差値の 上昇と全国偏 差値 50 以上の 者の増加	平均点偏差値で 1 年 数学が上昇した。50 以上の者は 1 年数 学、2 年英語・数学 B で増加した。	キャ リア C	センター試験等の分析を行いた いと考えている。同時に学習指 導の改善を進めたい。特に初期 指導の有効な確立を果たした い。
		・ 一般入試 (1, 2 月試験) の 受験者昨年度 より増加	一般入試の受験者は 概ね 40 人。1 月末で 延べの受験校数は昨 年度の 1.2 倍の 151 校である。	キャ リア A	出願校の質的改善及び合格状況 の向上を目指したい。
		・ 進学 (四大 100 名以上)	現時点での四年制大 学進学者数は 69 名で ある。今後増加する 見通しである。	キャ リア B	進学者数の増加と進学する大学 の質的向上を目指したい。
		・ 就職内定率 (100%)	12 月末で 100%を達 成した。	キャ リア A	今年は公務員試験で 6 名全員が 合格した。
・ 生徒の第一 希望先進路実 現率(100%)	概ね志望分野の合格 は果たせた。	キャ リア B	生徒の進路意識の成熟を促した いと考えている。		

様式第3号

		・各種検定取得者数が前年度増	全商1級3種目以上の合格者は13名で、昨年度より倍増にした。 (最高5種目合格)	ビジネスA	・全商簿記総合1級2年受験者合格率が95%と高い合格者を出すことができた。 ・検定取得を利用した大学進学 の早期指導をしていきたい。
エ	教育課程の見直し	・学科ごとのカリキュラムの検証・編成	1・2年次のカリキュラムの変更を検討し、申請中である。	教務B	教育課程を一部変更することにより本校が抱える課題のいくつかが解決されると思われる。今後も長期的な見地で検討していく必要がある。
オ	生徒の自主性・協調性及び目標に向かって挑戦する意欲と態度を育む	・課題解決の道筋を予測し、課題を解決するための計画を立てることができる生徒の割合75%以上	総合的な学習の時間の振り返りアンケートの結果で、68.3%の生徒が「当てはまる」と回答。	企画・指導主事B	昨年度より4ポイント程度の減少。他の項目で、「課題の原因や状況を理解して自分の考えを持つことができる」割合は81.7%、「自分の役割を自覚し、計画的に行動できる」割合は76.1%である。個人での課題設定解決能力は身につけていると考えられ、より社会への視野を広げる働きかけが必要と思われる。
		・学校祭の企画・運営（文化の部・体育の部満足度90%以上）	規律ある文化祭・体育祭が企画運営できたが、生徒の満足度は92%であった。	生徒B	文化祭の服装や内容等、もう少し生徒に考えさせ、本校生徒のエネルギーを外部の方々知ってもらいたい。
		・学校で勉強した内容をもっと知りたいと思う生徒の割合（60%以上）	アンケート結果では「かなり～まあ当てはまる」という回答は全体の54%だった。	教頭企画B	前年度の45%より上昇した。生徒が自ら学ぶ意欲を持つようさらなる授業改善が必要である。
		・全校集会集合指揮の積極的な取組	集会指導はHR委員、朝礼司会は生徒会執行部が行った。	生徒B	生徒会が全校集会のリーダーとなって、部活動の応援や自転車のマナーについて呼びかけるなどして、学校の活性化に繋がるものとした。
		・学校行事に満足している生徒の割合（90%以上）	アンケート結果では「かなり～まあ当てはまる」という回答は全体の90%であった。	生徒B	目標値には達成しているが、生徒主体の行事の内容を充実させる指導が必要である。
カ	安心安全な学校づくり	・交通安全教室の実施（年2回）	4/12 1年生 7/21 全校生徒	生徒B	危機管理能力が低くなってきており、身近な事故違反の実例を挙げての繰り返し指導が必要である。
		・自転車安全指導カード（年間100件以内）	H30.1/31現在【74件】 H28年度【117件】 H27年度【143件】 H26年度【210件】。	生徒B	違反者が大幅に減少した。特に危険個所の一時不停止が減少した。吉原駅からの通学路を一部変更したことも要因である。

		・自転車事故件数（昨年度より減へ）	H30.1/31現在【21件】 (高1)6人(高2)9人 (高3)6人 H29 【10件】	生徒 D	大きな事故も1件あり、生徒の危機管理能力が低くなっているのに加え、譲り合いの精神が大人にもなくなってきており、早急な対策が必要である。
		・学校に困ったことや悩み事を相談できる人がいる生徒の割合（95%以上）	学校生活に関するアンケートの結果より、悩みを相談できる人がいる生徒の割合は87%だった。	教育相談 B	昨年度より3%減少してしまい、目標の数値に届かなかった。引き続き、生徒が話をきいてもらいやすいような環境づくりを続けていきたい。
		・保健室、教育相談室が未把握での不登校をなくす	月に3日以上欠席の生徒を把握し、情報を共有できるよう健康観察カードで回覧した。	保健 ・ 教育相談 B	健康問題のみならず、配慮しなければならぬ生徒の把握ができた。
		・ピア・サポートの実施（年1回）	生徒対象、教員対象のピア・サポートを実施した。	教育相談 A	全校生徒に向けて、ピア・サポートの受講者を募りたい。
		・保健講座後の意識向上率20%以上	性関係を持つことは良くないとの回答率は講座前後で比べると男子39.4%が66.3%、女子46.0%が74.5%に上昇した。	保健 A	性関係容認率が低下した。
キ	家庭・PTA組織・地域との連携	・保護者・地域の方が参加できる講演会・研修会の企画（年2回以上）	3年生保護者を対象とした進路講演会を実施（5月）。 2年究タイムに大学より講師を招聘。学術顧問講話を実施。	キャリア ・ 企画 A	講師の選定や講話の実施時期について検討が必要。各学科の行事との重複を避け、精選も必要である。
		・学科・学年別懇談会の出席率（50%以上）	1年生 68.9% (37.0) 2年生 55.6% (39.7) 3年生 60.7% (29.1) 合計 61.7% (35.4) ()内は昨年度の%	総務 A	先生方の協力のもと、保護者へ出席の声かけ、懇談会の内容もDVD上映やブレスト・KJ法等いろいろな工夫を行い、出席率が大幅に上昇した。来年度以降、更なる工夫を試みたい。
		・学校運営協議会の提言が学校運営に反映されていると感じる委員の割合（80%以上）	委員10人中 ・そう思う8 ・どちらかといえばそう思う2	副校長 A	・広報の弱さの指摘をいただき、その強化に努めることができた。 ・「学校側の報告の場というように感じた。」との感想もいただいた。時間的制約もあるが、意見を多くいただける場としたい。

様式第3号

		<ul style="list-style-type: none"> ・人工芝で遊ぼう年2回実施 	第11回5月24日(水) 第12回10月20日(金)に実施した。参加者…ひな保育園児延べ120人、一般参加延べ21組の親子	地域A	スポーツ探究科2年生がひな保育園園児向けにゲーム等を事前計画し大好評であった。
		<ul style="list-style-type: none"> ・吹奏楽技術向上練習会年2回実施 	第7回練習会 11月4日(土)実施 市内外より140名が参加 第8回練習会 2月11日実施予定。	地域A	富士市内の未参加中学校への配慮(相互の行事調整)及び、市立高側進学模試・補講等との調整が必要である。
ク	改革実施計画の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・市教委との定例会(月1回実施) 	教育長・教育次長他市教委と管理職でほぼ月1回の定例会を実施した。	副校長B	学校の状況や課題を報告するとともに、生徒募集、今後の在り方等を確認した。
		<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価が昨年より上回っている 	生徒アンケートは平均値が2.92点(4点満点)で、前年度より0.07ポイント上回った。保護者アンケートは平均値が3.16点(4点満点)で、前年度より0.13ポイント下回った。教職員アンケートは平均値が3.27点(4点満点)で、前年度より0.02ポイント下回った。	教頭B	生徒の学校評価は前年度を上回ったが、保護者、教職員は下回った。生徒アンケートの中では学校行事に満足する生徒が多かった。保護者アンケートは今年度から対象を全校の保護者に拡大し、広く保護者の意見を知ることができた。学校と保護者が連携・協力しながらよりよい学校づくりを進めていきたい。
ケ	学科のコンセプトの実践	<ul style="list-style-type: none"> ・学科検討委員会の実施(学期1回) 	学科検討委員会は開催しなかったが、3学科長と管理職で必要に応じて課題を検討した。	副校長B	<ul style="list-style-type: none"> ・海外研修の実施時期の検討を行った。 ・学科と学年との一層の連携が必要。
コ	海外探究研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・海外探究研修の検証と充実(保護者・生徒の満足度95%以上) 	(総合探究科) ・生徒満足度96.6%	学科長A	<ul style="list-style-type: none"> ・参加率100% ・ハーバード大学、タフツ大学、ノースイースタン大学での研修は充実した研修になった。 ・現地高校訪問は生徒の活動の大きな柱となり、事前準備も含め、濃密な時間が過ごすことができた。 ・班別自由行動では準備をしっかりとっていた班が多く、集合時間等も遅れることなく、規律を守れた中、良い研修となった。

様式第3号

			(ビジネス探究科) ・生徒満足度 91.4%	学科長 A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒は前向きに研修に取り組んでおり、事前研修の成果が表われた。 ・研修内容はバランスよく組むことが出来た。 ・語学研修の充実が課題。
			(スポーツ探究科) ・生徒満足度 93.6%	学科長 A	<ul style="list-style-type: none"> ・参加率 100% ・現地スポーツセンターでの活動やスポーツ交流は、スポーツのあり方について多くの刺激を受け充実した研修となった。 ・事前研修の成果が表れ実際に体験し確信したことや、また新たな気づきも多く、持ち帰り事後研修に活かした。 ・今後、同世代の学生との交流を増やしたい。
サ	いじめ・体罰防止対策	・いじめ・体罰の兆候を見極め、生徒との信頼関係を築き、生徒の安心安全を守る	アンケートを実施し、把握に努めた。今年度から教育相談室会議に定期的に学年主任が加わり、生徒情報を共有した。毎月の職員会議では不祥事の事例をあげ、注意を喚起した。	教頭 B	担任、学年主任、生徒課、教育相談室、部活動顧問が情報交換を密にし、組織的な対応をとることができた。今後も生徒の変化を見逃さず、早めに対応することを心がけたい。
シ	広報の強化	・HPの更新(週1回以上)	長期休業中を除き、週1回以上の更新ができた。	情報 A	9ヶ月間(5～1月)の閲覧数が昨年1年間の数である13万を超えた。
		・中学校訪問の実施(年2回)	年5回程度市内中学校を訪問した。	副校長 B	管理職2回、運営委員2回、学科長1回。管理職、学年主任、3年部等に丁寧な説明ができた。
		・学校見学会の開催(年10回)	5月から11月まで年10回開催した。中学生と保護者が合計120人参加した。	教頭 A	前年度は83人から参加者が増加した。来年度も引き続き実施し、中学生と保護者に本校の魅力をアピールしたい。
		・ラジオエフの活用(月2回)	生徒会執行部の生徒が出演し、月2回の放送を行った。	教頭 B	生徒会執行部の生徒が本校様子をタイムリーに紹介できた。また、放送音源をHPにアップし、聴取できなかったリスナーにも提供することができた。
		・News Letterの発行(年2回)	10月号、2月号を発行した。	指導主事 A	意見を取り入れながら、10月号は集中研修を中心に、2月号は海外探究研修を中心に発行し、探究学習の発展的な内容を取り入れた。